

八月十三日に、内の南安殿に在して、肆宴

したまふ歌二首

四四五二番

娘子らが 玉裳裾引く この庭に 秋風吹きて
花は散りつつ

四四五三番

秋風の 吹き扱き敷ける 花の庭 清き月夜に
見れど飽かぬかも

十一月二十八日に、左大臣、兵部卿 橘
奈良麻呂朝臣の宅に集ひて宴する歌一首

四四五四番

高山の 巖に生ふる 菅の根の ねもころころ
に 降り置く白雪